



## 考え、行動する～問題を解決する力～

最近、気温や暑さ指数が高かったり雨が降っていたりと、外遊びができない日が続いています。そのため、昼休みの校内での過ごし方が課題になっています。廊下を走ったり、大声で騒いだりという状況があります。

そこで、まず、企画委員会がその課題についてどのように対策すればよいかを話し合って、「学校の安全を守り隊」として、スタンプラリーをしたり、音楽室に人を集めイベントをしたりと、走らずに済むような活動を考え今、準備をしているところです。

そして、前期前半の国画工作で作った紙芝居を、1年生教室に行って読み聞かせるという活動も始めました。

学校生活を見つめ、課題を見いだし、その解決に向けた方法を考え、動いていく姿、主体性を高めた姿はすばらしく、その力をどんどん伸ばしてくれることと期待しています。



## 心の中にあるのは、だれのこと？大切にしていることは何？

皆さん、世界陸上（陸上の世界選手権東京大会）は観られていますか？世界のトップの選手たちのパフォーマンスそして感動の名場面が私の心をつかんで離しません。

女子マラソンで、日本の小林選手が7位入賞を果たした後、ふらふらと倒れた小林選手に、その33秒前に4位でゴールしていたアメリカのサリバン選手が歩み寄ると、両手を差し伸ばし、小林選手を抱き起こし、肩を貸して共に歩む姿がありました。サリバン選手の心の中には、過酷な状況で一緒に42.195kmを走り抜いた仲間への尊敬の念があつたと思います。

そこから思い浮かんだのが昔から伝わる「ウサギとカメ」のお話です。足の速いウサギと、歩みののろいカメのかけっこ競走。ウサギはあつという間にカメを置き去りにして先に行きます。勝ちを確信したウサギは余裕をかまして、途中で昼寝をしてしまいます。カメはウサギが寝ている間にたゆまず歩みを進め、ついにウサギに勝利します。ウサギはそれ以来、カメのことを笑わなくなつたというお話です。



日本でこの話は、自信過剰で慢心していい加減に物事に取り組んだウサギへの戒めや、目標に向かって地道にコツコツと努力を重ねるカメのすばらしさを説いたものだというものが一般的です。

しかし、この話の外国の人のとらえ方は違うそうです。カメの行動に多くの疑問が寄せられると。なぜカメは寝ているウサギの横を素通りしたのか？ウサギは病気かもしれない。けがをしているのかもしれない。「どうしたの？」となぜ声をかけないのか。それで勝利して満足なのか？そんな勝ち方をして自分を誇れるのか？自分が勝つことしか頭にないカメは意地悪ではないかと、様々な意見が出るそうです。

そこには、「心の中にだれのことがあるのか。自分だけか、自分のまわりの他者か」そして、「どんな自分で在りたいのか」「誇りうる生き方とは・・・」などがあるようです。

そんなことを考えながら、いつものように授業観察に行くと、この南小でも、とてもすてきな姿に出会いました。

4年教室で国語の授業。Cさんは教科書を忘れたので、

Aさん Bさん

Cさん

隣の二人組のAさんとBさんに「教科書、見せて」と頼みました。

するとすかさず、Aさんは「いいよ！じゃあ、私のを貸してあげる！」

と言って教科書を渡しました。Bさんは、自分の教科書をAさんと一緒に見るために、二人の机の真ん中にすっと置きました。



このAさんとBさんの心の中には確かに「隣の友」がいます。決して自分のことだけではありません。知らんぷりしません。

友を想い、行動するこの子たちが、もしもカメの立場だったらどうするのでしょうか？そんなことを考えながら次の学年へ。

今度は、2年生が生活科の授業に取り組んでいました。1年生を招待して、「おもちゃまつり」を開くので、その準備です。折り紙や牛乳パック等を使って、楽しいおもちゃを一生懸命に作っています。2年生の心の中にあるのは、入学して半年の1年生のことであり、大切にしているのは、1年生の笑顔なのです。

東京の陸上競技場だけでなく、この南小の中でも「人を想い行動する」価値のすばらしさを見つけることができました。心の中をぽかぽかさせてくれる、人としての温もりに満ち溢れている子どもたちです。

